

ひとり情シスのIです。

本日は、Windows10とは関係ないですが、会社で使っているNASの話です。

NASというとバッファローのTeraStationとか思いつく人もいるとは思いますが、ここ5、6年は海外メーカーのものが結構よく出ています。

その中でもSynologyというメーカーのNASを会社で使っていますが、これのいいところは、色々アプリをインストールして機能を拡張できることです。<https://www.synology.com/ja-jp>

会社でよく使っている機能としては、Cloud Station と呼ばれる、NAS上のファイルを接続しているすべてのPCでファイルの双方向同期をとる機能です。イメージとしては、Dropboxを使っている方がいれば、あれとよく似ています。違うのはファイルを格納したサーバがインターネット上ではなく、ファイルの実体は社内のNASにあることです。

NASにユーザ登録をしておいて、Cloud Station Serverに共有フォルダを設定し、Cloud Station DriveのアプリケーションでNASに接続して、同期対象にしたいフォルダを指定するだけで終わりです。初回は、すべてサーバからとってきて、同期対象フォルダにコピーするので、同期に時間がかかります。一度同期されればあとは変わった分だけコピーするだけなので、そんなに時間はかかりません。

弊社では、報告書作成など、共同作業をする際には、Cloud Station Drive管理のフォルダの中に、技術部の社員のすべてで双方向同期するフォルダを作っております。

例えば、すべての社員のPCで「H〇〇年度業務」というフォルダを双方向同期する対象にしてしておくだけで、各PC上でファイルを作成、編集、削除したことが、次の瞬間には、インターネット経由でNASに伝わり、NAS上で更新されます。そのあと、サーバからファイル更新情報が各クライアントPCに飛び、同期されます。

良いところは、Cloud Stationを使用することで、ネット経由で同期してくれるので、ファイルを自力でコピーする必要がなくなります。また、簡単なバージョン管理機能があり、編集保存後のファイルを消してしまっても、前の世代のファイルを取り出すことができます。

Windowsでのネットワーク上の共有フォルダでは、編集が競合したときに上書きされたら、タイミングによっては、せっかく修正したファイルが消えてしまう可能性があります。この機能のおかげで2つ前のバージョンに戻すことも簡単にできます。さかのぼれるバージョンは、現在は10バージョン前までにしてはいますが、これはNAS側の設定で変更できます。

後は、この同期は社内だけでなく、インターネットにつながっていれば、いつでもどこでも、ファイルが同期できるので、社外に出た時でも重宝します。

そのほかにも機能はありますが、続きはまた明日。(I)